埼玉医科大学医学部
同窓会会報

第77号

令和５年11月

巻　頭　言

会長　稲　葉　宗　通

木々も急に色づきめっきり秋らしくなりましたが，会員の皆様にはご健勝にてご活躍の事とお喜び申し上げます。また日頃は同窓会に対しましてご理解とご支援を賜りまして御礼申し上げます。

さて初めに，会員の皆様にお詫びしなければならないことがあります。それは，これまで年３回お送りいたしておりました同窓会会報をこの３年間お届けできなかったことであります。毎回心待ちにしておられる会員の方も多いと聞いておりますが，同窓会のコロナ対応を含めた諸事情により滞ってしまいましたこと誠に申し訳ありませんでした。特にこの間に貴重な原稿をご寄稿いただきました多くの先生に掲載できませんでした事を衷心よりお詫び申し上げます。

従いまして今回の会報はこれまでご寄稿いただい原稿の中から，大変勝手ながら編集委員会にてまとめさせていただきました号となりますことをご了解いただきたく存じます。次号の新春号からは時期を逸せず会員の皆様や大学の皆様の情報を掲載してお届け致します。

この３年間の同窓会活動は大部分が中止となりましたが，それでも昨年秋からは制約を受けましたが徐々に以前に戻りつつありました。その初めが８期生で外科の篠塚望教授が埼玉医科大学病院長に就任し，そのお祝いを行うことが出来た事でありました。またこの間に卒業生が，学内外で教授職に９名，公立病院長職に３名の先生が就任され，今春から就任披露の会を開催できるようになりましたので，順次ご紹介させていただきます。これまで開催いたしました会の様子は追ってご報告いたします。

また大学においては，厳しい環境の中時間が止まることはなく，学生の受け入れ，患者の対応等々，粛々としかも着実に前進し今日に至っています。この間には開学 50 周年記念式典が昨年学内関係者のみで厳かに開催されました。さらに大学の母体病院である毛呂病院（現丸木記念福祉メディカルセンター）の開院 130 周年記念式典も行われました。

そしてコロナの影響を最も影響を受けたのは後輩の学生たちであったものと思います。３年間対面での授業も実習も限られ，学年全員で顔を合わせることもなく過ごし，しかもマスク下で同級生の顔もわからず，限られた友人との関係となったことでこれからの医師としての人間形成にどのように影響するのか懸念されるところです。

この３年間の出来事は，まだまだ語り尽くせないほど多くありますが，追って順次ご報告できるものと思います。

これからは会員の皆様に発信できる重要な情報源のひとつである同窓会会報を滞りなくお届けし，内容もより充実させたものになる様努力していきたいと考えておりますので，これからも皆様のご寄稿を宜しくお願い致します。